

戸 田 市 教 育 委 員 会 会 議 録		
招 集 期 日	令 和 6 年 6 月 2 0 日 ( 木 )	
場 所	戸 田 市 役 所 教 育 委 員 室	
開 会	6 月 2 0 日 午 前 9 時 3 0 分	
閉 会	6 月 2 0 日 午 前 1 1 時 0 0 分	
教 育 長	戸 ヶ 崎 勤	
教 育 長 員 出 席 状	戸 ヶ 崎 勤	出 席
	仙 波 憲 一	出 席
	木 村 雅 文	出 席
	長 道 修	出 席
	浜 田 美 咲	出 席
説 明 員 ( 出 席 者 )	川和田教育部長、梶山参事、片境次長	
	金澤教育総務課長、杉森教育政策室担当課長	
	鎌田生涯学習課長、高屋生涯学習課課長	
書 記	教育総務課総務担当 我妻副主幹	
傍 聴 人	1 名	

## 会議の経過及び結果

教育長

アメリカの行動経済学者、心理学者であるダニエル・カーネマンという著名な学者が今年の3月末に90歳で亡くなりました。「人は損失を回避する傾向があり、状況によってその判断が変わる」という意思決定に関する「プロスペクト理論」を1979年に提唱し、行動経済学の基礎を築いたという理由で、2002年にノーベル経済学賞を受賞しています。

例えば、「50%の確率で3,000円を受け取ることができるが、50%の確率で3,000円を支払わないといけなくじがあるとします。あなたは、このくじをもらうだろうか。」という問題があります。恐らく、ほとんどの人は、「もらわない」と答えると思います。理由は、3,000円を受け取る嬉しさより、3,000円を失う失望感の方が大きいと感じるからだだと思います。この傾向を「損失回避性」と呼ぶそうです。

プロスペクトとは「見込み、展望、期待」といった意味ですが、これは確率的な意味合いでの期待となっています。人は確率的に不確実な状況であっても、「見込み」で期待値を歪めてしまい、客観的な事実だけで合理的な意志決定できなくなるというのです。

また、よく知られた話ですが、彼は、有名大学の学生たちに次のような問題を出しました。「バットとボールは合わせて1ドル10セントで、バットはボールより1ドル高い。ではボールはいくらか。」という問題です。興味深いことに、高等教育を受けていても結果はほとんど変わらず、ハーバードやプリンストン、マサチューセッツ工科大学の学生たちも、50%以上が「10セント」と間違っただけの答えを出したそうです。

冷静に考えれば方程式など立てなくても、図式にすれば小学生も解けます。簡単にわかることでも、答えを急ぐ心理が私たちに単純で間違っただけの論理に飛びつかせることとなります。

人間は、不確かな状況に直面したとき、情報を丹念に評価したり、関連のある統計データを調べたりはしません。代わりに、「知的ショ

	<p>ートカット」(mental short cuts)に判断を委ねる傾向にあるそうです。このショートカットは、検討を速く行うというわけではなく、思考停止状態を作り上げるのだそうです。ただし、これは、人間の本質的な要素であり長い進化を遂げてきた脳が持つ、避けがたい副作用だと言われています。自分も含めて誰もが間違っただ判断を下す可能性はある、ということ相互に認めることにより、他者を受け入れ、摩擦や争いを可能な限り少なくするように努めたいものです。</p> <p>「躓いたっていいじゃないか にんげんだもの」という相田みつをの言葉が思い浮かびました。</p> <p>因みに ChatGPT や Gemini に考えさせたら、瞬時に正解を出しましたが、何と連立方程式を立てて正解を導き出していました。決してエレガントな解法とは言えませんが、生成 AI には、損失回避性や知的ショートカットはなさそうです。</p>
教育長	<p>それでは、ただ今から、令和6年第6回戸田市教育委員会定例会を開会いたします。初めに、前回の会議録の承認ですが、事前に会議録の内容を見ていただいておりますので、御異議がないようでしたら承認ということでよろしいでしょうか。</p>
各委員	<p>了承</p>
教育長	<p>それでは、会議録に御署名をお願いします。</p>
各委員	<p>署名</p>
教育長	<p>次に、秘密会となる案件につきましてお諮りいたします。次の案件については、個人情報、公開することにより事務の公正な執行に支障が生じる案件及び人事案件となりますので、秘密会で行うこととしてよろしいかお諮りいたします。</p> <p>議案第17号「戸田市健全な教育環境確保のための住宅開発抑制に関する指導要綱」に係る地区指定の指定期間の延長について、という事を秘密会で行う事でよろしいでしょうか。</p>

各委員	(異議なし)
教育長	それでは「議案第17号」は、秘密会とすることに決定いたしました。
教育長	<p>では、「教育委員提案」について御報告いたします。</p> <p>仙波委員、長道委員から御提案のありました「教育委員提案 特別でない特別支援教育について～通常学級との交流など～」を事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>仙波委員、長道委員から御提案のありました特別でない特別支援教育について、通常学級との交流や入級に向けての判断、指導などについて御説明いたします。</p> <p>2ページを御覧ください。こちらは戸田市教育委員会のビジョンです。教育長のコンセプトに出てくる3Kの中でも、特別支援の文脈では2K、経験と勘により強くリードされる傾向があります。だからこそ、新しい2K、科学と根拠に基づいた、「特別でない、特別支援教育」の実現を目指しています。</p> <p>事務局担当者が特別でない支援を説明する際に活用するものが3ページになります。野球観戦の場面です。3人の子供が居ますが、それぞれ背の高さが違います。多様性と捉えていただき、見えないので支援が必要な子も居る状況。平等に支援となると、箱を一つずつ用意することになりますが、それでも届かず見られない子も居ます。そこで、4ページです。箱を2つの子、1つの子とそれぞれの状況に合わせて支援することで、公正に支援が出来、みんなが笑顔で観戦できるようになります。特別なことではなく、このような場面だったら皆さんそうするのではないかと思います。正に、特別でない特別支援はこのようなイメージです。もっとも、5ページのように塀がフェンスだったら、先ほどの箱もいらなくなります。環境の調整です。これらを学校教育の現場で進めていくため、本市では6ページ、</p>

令和4年3月に改めて特別支援教育推進計画を策定しました。

7ページ、ここでは障害のあるなしに関わらず学びやすい学級づくりや、今、正に各学校で研究を進めているPBSなどの応用行動分析学に基づく、気になる行動を望ましい行動にするためのアプローチなども示しています。

8ページは学びの場についてです。全ての場でそれぞれの児童生徒に応じた支援ができることを目指しますが、環境の調整の一つとして、通常の学級とは異なる環境で学んだ方が力を伸ばせる児童生徒もいます。本市では、通常学級に加え、通常学級に在籍しながら一部を別の教室で学ぶ通級指導教室や、少人数の学級で過ごすことを基本とする特別支援学級として知的障害と自閉症・情緒障害特別支援学級を設置しています。市外になりますが、和光に特別支援学校や高等部として戸田かけはし特別支援学校もあり、それぞれの児童生徒にあった環境で学べるようにしています。

9ページは、その学びの場を選択する就学相談の流れです。年長児の4月から教育センターでの就学相談を受けられる体制になっており、希望に応じて面談や園訪問、小学校の見学や特別支援学級の体験などを行い、慎重に選択ができるように配慮しています。また、本市では専門的な知見を有するカウンセラーが多く居るため、教育センターなどで得意・不得意を把握するための発達検査やカウンセリングを受けることができます。それらを経て、就学支援委員会で協議が行われ、委員会での判断も参考にしながら、本人及び保護者の意見を尊重しながら就学先の決定に繋げています。また、一度特別支援学級に入級したからと言って、支援の必要性が変わってくれば、通常学級に在籍したり、特別支援学校へ転籍したりすることもあります。

ここからは特別支援学級等での指導について説明いたします。10ページを御覧ください。特別支援学級や通級指導教室で行われる「自立活動」です。教科の指導に加え、障害による学習上または生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識や技能等を養うも

のです。一朝一夕には行きませんが、11ページのような観点で苦手さを克服できるように支援をしております。

12ページは特別支援学級で行われる、「生活単元学習」です。そこにあるように、課題解決をする経験をつみ、自立的な生活に必要な事柄を実際的・総合的に学習するものです。まさに戸田市が進めているPBL通じるものが有り、具体的な成果がより見えやすいように、販売学習やカフェのような取組も行われています。

13ページ。通常学級との交流も行います。それぞれの児童生徒の学習状況にあわせて国語や算数などの授業を通常学級で受けることや、給食や行事などを一緒に取り組んだりすることもあります。

14ページからは通級指導についてで、まず、ことばの教室についてです。発音や吃音などの改善に向けた自立活動に取り組んでいます。15ページは発達・情緒通級指導教室についてで、こちらでは、気持ちの安定のさせ方やコミュニケーションの取り方、読み書きの困難さの改善に関することなど、児童生徒の実態に応じて指導しています。この通級という仕組みは、自分の学校にその教室があれば校内を移動するだけですが、設置が少ないため、保護者の協力を得ながら他校へ通級していきます。16ページ、現在戸田市ではその通級に係る移動や本人及び保護者の負担なども鑑み、担当する先生がそれぞれの児童生徒学校を回り自分の学校で指導が受けられる、巡回指導形の通級の研究を進めています。今後研究が進みましたら、御報告をしたいと思います。

17ページ。ここまでのお話から教師の専門性が必要であることは自明のことと思います。そこで、教師の専門性を高めるために各種研修を実施しています。例えば特別支援教育コーディネーターの研修会やユニバーサルデザイン研修会など、特別でない特別支援を実践できる教師の支援に当たっています。また、一人一人の状況と将来を考えると、それぞれにどのように関わりどんな力を付けたいのかがまったく違ってきます。担任の先生は一人一人に応じた支援の計画を立て、それに基づいて指導や支援をしていきます。年々在籍

	<p>人数も増えており、計画を立てることが大きな業務にもなっています。そこで戸田市では 18 ページのように、企業の LITALICO と連携し、個々の計画を作成しやすくするシステムを導入しています。これにより、個別の計画が作りやすくなり、作成された計画に沿った教材や参考動画なども活用できるようになっています。</p> <p>19 ページ、様々御説明をしてまいりましたが、冒頭申し上げたように、特別でない特別支援教育を推進するため、学びの場を単に分けるというのではなく、シームレスにつなぎ、効果的な実践を幅広い分野で生かしていくことで、学びの場を分けるか分けないかという議論ではなく、子供たちの教育的ニーズにあっているか、本人がその場で学びを楽しいと実感できているかと問い続けていきたいと考えております。</p> <p>説明は以上です。</p>
<p>教 育 長</p>	<p>何か御質問等がありましたら伺います。</p>
<p>委 員</p>	<p>特別支援教育を進めるということは、最終的に共生社会の実現に繋がるということと理解しています。</p> <p>私が学校教育に携わっていた際は、学校の中でその子の特質や能力をどう育成するかという点で、「この子は音楽の授業であれば行かせた方が」など考え、本人が一番やりやすいことを選択して楽しい思いをしてくれるのが良いと思いながらやっていました。しかし、学校の中でも本当に 1 人 1 人の特質や能力が違うので、その子に合ったものをどうやって進めていくのかということは、非常に難しい点でもありました。</p> <p>以前、学校訪問で特別支援学級を見学した際に、子供がかなり楽しそうに生活単元学習をやっていました。1 人 1 人が生き生きと頑張っている姿を見て、本当に先生方が良くサポートしていらっしゃるのだと感じました。</p> <p>また、発達・情緒通級指導教室が保護者の皆さんのために巡回指導</p>

	<p>して下さっていますし、教員の専門性の向上・支援に向けた研修も大変良くやられていて安心しました。</p> <p>大変難しい状況の中でも引き続き、それぞれの子が精一杯頑張れるような環境に置いていただければ助かります。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。非常にありがたいコメントをいただきました。事務局から何か補足はありますか。</p>
事 務 局	<p>委員がおっしゃったように、通常学級、特別支援学級に関わらず、全ての子供たちが力を発揮できるように我々としては進めていきたいと思います。そういった点で、特に特別支援学級や通級指導教室はその子の特性に応じた指導や支援が必要です。</p> <p>その部分の計画、支援を民間企業の力も借りながら、深めて高めていき、引き続き努力を重ねていきたいと思っております。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございました。</p> <p>他には、いかがでしょうか。</p>
委 員	<p>資料 19 ページに「『学びの場を分けるか、分けないか』の議論ではなく、『すべての子供たちの教育的ニーズに即した教育が提供されているか』、『本人がその場での学びを楽しいと実感できているか』を問い続けること」と書いてありますが、やはりこれが一番大事な考えなのだと思います。</p> <p>最後にこの言葉を載せていただいたことで、特別支援教育を推進していく上で、やはり一人一人の人格を尊重して、学ぶ楽しさをいかに味わってもらうかが一番大事なことで、戸田市の方向性は間違っていないのだろうと感じることができました。</p> <p>一点、質問させていただきたいのが「通級の指導」について、自校通級、他校通級、巡回指導の 3 種類があったかと思います。コストや子供が移動する際の保護者の負担を考えた場合に、今のところどれが一番良い形態だとお考えになっているのでしょうか。</p>

<p>事務局</p>	<p>通級指導教室の指導形態につきまして、従来、県の方で示されていたものは自校通級と他校通級のみでした。</p> <p>自分の通う学校にあれば自校通級となりますが、なければ他の学校に行くという形です。戸田市では当初、発達障害・情緒障害の通級指導教室が喜沢小学校にしかなく、どの小学校の児童も喜沢小学校に行く仕組みになっていました。その後、美谷本小学校にも増えて2か所になりました。それでも委員がおっしゃるように、保護者が送る負担が非常に大きいと感じております。特に戸田市では共働きの保護者も多く、日中お仕事をされている方だと送ることができないということも多々聞いております。そこで今まさに試行的に巡回指導を始めて、研究を進めているところです。</p> <p>通級指導の教師が子供の在籍する学校に行くことで、保護者の送迎する負担がなくなります。また、それによって子供が指導を受ける機会も増えますので、巡回指導を進めていきたいと考えています。課題としては、指導する教師の方の人数が必要になってきます。巡回指導用に教師が増えるわけではないので、県教委と調整をしながらやっていかなければならないところです。コストという意味では、移動に関わる旅費の部分がプラスアルファでかかるので、その辺りも県教委に要望していきたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>ありがとうございました。話を聞いていて思ったのは、専門的知識・技術を身につけている先生が足りない時は、そういった先生に外部から来てもらうということでしょうか。</p> <p>これは大学でも全く同じです。その大学にいる先生方が教えられる範囲と、教えられない範囲があります。そうなった際にどうするのかというと、非常勤講師を呼びます。他の学校の先生をお呼びして補充していくというやり方です。これと同じような形で、先生に巡回してもらって足りないところを補っていくという考え方をすると、そこにいる子供たちも既にいる先生方も充実するという意味で、私は大いに注目をしたいと思います。</p>

	<p>もちろん、自校通級が全校で整備されれば良いのですが、専門的知識・技術を身につけている先生は少ないと思うので、巡回指導をどんどんやっていただいて、良い意味でこういうことができる、できないというのをトライアンドエラーでやっていただければ良いと思いました。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>今、特別支援教育を語る際に、通常学級と特別支援学級を分けずに一緒に教育するべきではないかという意見があります。</p> <p>しかし、一緒にした際に、本当にその子供一人一人がニーズに即した教育をされているのかというと、交ぜることが目的となってしまう、放任されてしまい、きめ細かな指導がなされていないようなこともあり、そこがインクルーシブ教育の難しいところでもあります。</p> <p>我が国の現在の教育制度からすれば、厳密には、「インクルーシブ教育」といった言葉は使うことができないのです。それは、我が国の教育制度が、特別支援学校など特別な場での教育の場を残し、地域での学びの連続性を保障していることから、「インクルーシブ教育システム」と称しています。こうしたことから、特別支援教育の分野では、個別的で特別なニーズに合わせた教育が必要だとの認識はすでに日本にも普及しています。</p>
委員	<p>お話伺っていて、いろいろと進化・改善等をされて、支援をより良くしていただければと思います。</p> <p>また、話は変わりますが、不登校の子供についても支援を進めていただき、そういった子供が集まり、かけずり回り、なにか作って、人とのふれあいを楽しんだり感じたりする居場所もあると良いと思いました。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。ぜひ、今度の総合教育会議で話題として出していただけるとものとてもいいかと思います。</p>

	他の委員の方はどうですか。
委員	<p>特別支援教室に通う子供の保護者だけでなく、全ての保護者に通ずる考えだと思いますが、自立のところで子供が大人になって自分の力で生きていく力を養えるかということが一番心配なところだと思います。これを核にして教育をやっていただいているのは、本当にありがたいことです。</p> <p>また、通常学級と特別支援学級の交流は、通常学級に通っている子供も、どうサポートしてあげたらみんなで一緒に楽しめるかなどを考えるきっかけにもなりますし、お互いに良いことだと思いました。</p> <p>知り合いに特別支援学級に通っている子がいます。その子が小学校に入る際に、「みんなと同じ学校に通いたいけれど特別支援学級がない」と保護者が悩んでいましたが、いざ入際にできることになり、すごく喜んでいたので思い出しました。今は巡回指導もあり、学びの選択肢が増えたというのがすごくありがたいことだと思うので、ぜひこのまま進めていただけたらと思いました。</p>
教育長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本当に知恵と汗を出して、特別支援教育を進めていくということでその成果が出始めました。</p> <p>市民や保護者の方々のニーズも反映させながら進めて行ければと思っています。</p>
教育長	<p>続きまして、長道委員、浜田委員から御提案のありました「教育委員提案 キャリア教育について～子供たちに夢や希望を持たせるための取組～」を事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>続いて長道委員、浜田委員から御提案のありましたキャリア教育について、3Daysの取組も含め、説明いたします。</p> <p>22 ページを御覧ください。こちらは文科省が手引きで示している「キャリア教育で育成すべき力」です。基盤となる能力や態度を「基</p>

礎的・汎用的能力」とし、4つのカテゴリーで整理しています。具体的な要素としては、コミュニケーション・スキルや忍耐力、課題発見や計画立案の力、将来設計なども育成すべき力として示されています。

23 ページを御覧ください。それらの力の育成に当たっては、特定の取組をすればキャリアについて力がつくというわけではないため、学校教育全般を通して育成していきますが、特に「特別活動」を要として進めています。「特別活動」の学習指導要領では内容で示されているもののうち、学級活動(3)として「一人一人のキャリア形成と自己実現」という項目がございます。自己実現とのつながりを考えること、また、自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルール、働くことや社会に貢献することについて考えて行動すること、そして、目標をもって生き方や進路に関する適切な情報を収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えることなど目指しています。

具体的な取組ですが、各校では24ページにあります、「キャリア・パスポート」を活用しています。毎学年末にこのシートを使って振り返ることで、各教科等、学校教育全般で取り組んでいる活動に横串を指し、かつ、これを次の学年に引き継ぎ小・中、そして高校へとつなげていくことで縦・系統的なキャリア教育を進めております。これらの取組は自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては理解を深めるためのものとなります。

25 ページを御覧ください。戸田市では小学校のキャリア教育を支援するため、キッズニア東京での学習に支援をしており、市内ではすべての小学校4年生が校外学習として学んでいます。キッズニア東京で体験しながら、働くことの意味や社会や経済の仕組み、コミュニケーション能力などを養う一助としています。26ページはキッズニアにおける戸田市のキャリア教育の実践プログラムで、体験学習を行う事前と事後を大切にし、狭い職業観から広い職業観へと転換できるよう、右下のような学習カードも活用しています。

27 ページは、戸田市が平成 29 年度から取り入れている、セサミストリート・カリキュラムです。この中でキャリア教育に関係したプログラムや、多様性を理解してみんなが過ごしやすい社会をつくることを考えるプログラムにも取り組んでいます。

28 ページは本市の社会体験チャレンジの取組についてです。ねらいはそこにあるとおりで、豊かな感性や社会性、自立心を養い、たくましく豊かに生きる力を育むことにあります。対象は中学 2 年生で、市役所関係でもそこにあるような多数の課で社会体験をしており、その他にも小学校や地域の企業、事業所などの施設などにも受け入れを依頼し、実施しております。29 ページはその様子です。30 ページ。また、本市の特色でもある外部との連携の観点では新曽小学校で民間企業と連携した特別授業として、「自己理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力」や「自己の在り方や生き方を設計する力」を育む授業に取り組みました。戸田南小でもイベントプランナーから御指導いただくことで、将来の職業について考える機会をもちました。

31 ページは、特別支援学級における実践例です。特別支援で日頃から御支援をいただいている企業と連携し、将来の就労も意識しながら、どのような学校選択があるのか、保護者向けのセミナーを開催し、進路相談の際、生徒が保護者とともに将来を考える機会としています。また、特別支援学級で作成した小物入れやペンケースを販売して次の企画を進めるなど、まさに PBL の取組である生活単元学習にも取り組んでいます。

32 ページ。卒業後の進路決定に向けては、高校の教員による高校紹介をしたり、卒業生の協力のもと、進路指導に生かしたりするなどの取組も行っています。

冒頭述べましたように、特定の取組をすればキャリア教育になるというわけではないので、戸田市は戸田市の特色も生かし、学校教育全般を通してキャリア教育を進めております。

説明は以上となります。

教 育 長	何か御質問等がありましたら伺います。
委 員	<p>私自身の経験からも、夢を叶えるためには目標設定をしっかりとしていかなければならないと思っています。最終的な目標を叶えるためにどうしたら良いのかをどんどん掘り下げて、まず身近な目標からクリアしていくことの積み重ねが重要だと思っています。</p> <p>セサミストリート・カリキュラムという名前は知っていましたが、実際にどのような取り組みか知りませんでした。しかし、先程の説明で自分の将来を見据えて、それを叶えるための計画と行動を考える能力を育成する素晴らしいカリキュラムだと知ることができました。</p> <p>また、社会体験チャレンジですが、体験前後の取り組みが知りたいところだったので、わかるようであれば教えていただきたいです。</p>
事 務 局	<p>ありがとうございます。まず夢を描くということは我々もとても大事に考えています。大きなゴールに向けて手前のゴールを設定するというところで教育を進めているところです。</p> <p>社会体験チャレンジの事前指導というところですが、どの中学校でも社会体験チャレンジの目的をしっかりと確認するというところを行っています。働くことの大切さややりがいを学ぶ、あるいは社会のマナーやルールを学ぶ、あるいは職業や将来の夢を育む、新しい自分を発見するなどの目的をしっかりと設定し、社会体験チャレンジに気持ちが向くように指導をしています。また、事後指導というところでは、実際にその活動が今後の自分の将来にどう関わってくるのかということを考えさせるような時間をとって、夢に繋がるような働きかけを進めているところです。</p>
委 員	<p>なかなか自分が好きな仕事を見つけられない人が非常に多いので、小学校・中学校のうちからいろいろな職業を知って、興味を持ってほしいと思います。</p>

	<p>自分が生きる道といたしますか、広い視野をもって子供たちが夢に向かって進んでいけるよう、御指導をお願いします。</p>
教 育 長	<p>他の委員からも御意見をいただければと思います。</p>
委 員	<p>このような体験型のキャリア教育は普通の授業とどういう結びつきがあるのでしょうか。例えば算数・国語・英語などいろいろな教科がありますが、そういった教科とどうリンクされていますか。</p>
事 務 局	<p>カリキュラム上ですと、資料 23 ページにもあるように、特別活動の学級活動（3）に入ってきます。</p>
委 員	<p>キャリア教育を生かす意味においても、いかに有機的に結びつけていくかがすごく大事だと思います。体験型のキャリア教育が終わったら終わりではなく、他の科目との兼ね合いを先生方も意識して、時間をきちんと作っていくことがよりキャリア教育の重要性を高めるかと思います。私が子供のころはキャリア教育という言葉すらありませんでした。毎日がキャリア教育で、田んぼへ稲刈りに行ったり、授業以外のことをやらされたりしましたが、こういう形できちんとキャリア教育が定義されていて、今の子供はすごく幸せだと思います。自分の進路を見つけるきっかけになる機会を与えてもらっています。</p> <p>ますます社会体験チャレンジを受け入れていただける場所が増えるように、頑張っていたきたいと思います。</p>
教 育 長	<p>ありがとうございます。これはクロスカリキュラムといわれる縦と横で考えていく部分です。横の部分では特別活動の一環として、それぞれの学校が創意工夫して社会体験チャレンジをやっていきます。</p> <p>今、委員さんがおっしゃったように、指導内容の充実は縦の部分から、それぞれの教科でどういった指導をするかをかみ合わせながら</p>

	<p>横断的な学びの視点でキャリア教育を見ていくわけです。</p> <p>ですから、学校ごとに様々な特色や課題があっても良いと思います。</p>
事務局	<p>カリキュラムマネジメントがかなり重要視されるかと思います。</p>
教育長	<p>まさに正解があるわけではないので、創意工夫をしてカリキュラムをマネジメントしていくかというところが各学校問われている内容という気がします。</p>
委員	<p>市内全小学校が小学校 4 年生でキッザニア東京に校外学習しに行くという取り組みはいつからやっていたのでしょうか。</p>
事務局	<p>2013 年（平成 25 年）から実施しています。</p>
委員	<p>話を伺って、キッザニア東京での経験がのちに生きるのではないかと思いました。</p> <p>また、セサミストリート・カリキュラムを見ていると、大谷翔平選手の目標達成表を思い出しました。このようにすればこうなるということ順序立てて書く表です。このセサミストリート・カリキュラムは市内の全小学校でやっているのですか。</p>
教育長	<p>新曽小学校が市の研究校として取り組み、現在は市内の全小学校で実施しています。</p>
委員	<p>戸田市のキャリア教育は、将来の目標に対して「今はこういうことをやらなくてはいけない」ということがわかる非常に良い取り組みだと思います。</p> <p>社会体験チャレンジでは、それぞれの子が学校に戻ってから成果をクラス全体に共有するというカリキュラムがあり、これは大事な取り組みだと思っています。</p> <p>また、小学校で外部講師を招聘されたとのことですが、以前中学校</p>

	<p>でも社会で活躍されている卒業生を招いて講演をしていただいたことがあります。大きな夢を持って頑張っている人の話を聞く機会をつくるため、中学校でもまた講演会をやっても良いのではないかと思います。</p> <p>最後に、特別支援学級におけるキャリア教育について、やはり保護者としては子供の進学や就労に非常に関心が高いと思います。こちらは教育委員会の提案で開催されたのでしょうか。</p>
事務局	保護者のニーズを学校が受け止め、スタートしました。
委員	これは毎年やられているのですか。
事務局	今後、毎年やっていく予定です。
委員	不安を抱えている保護者の方からすると非常に良い取り組みだなと思って聞いていました。
教育長	ありがとうございました。
教育長	<p>それでは以上を持ちまして教育委員提案を終了いたします。</p> <p>続きまして、「報告事項」について申し上げます。本日は「その他」を含めまして4件の報告がございます。</p> <p>令和6年6月戸田市議会定例会 教育関連一般質問及び常任委員会について</p> <p>埼玉県立戸田翔陽高等学校と戸田市立郷土博物館の連携企画展写真部作品展の開催について</p> <p>令和6年度「子ども大学とだ」について</p> <p>その他</p> <p>についてです。順番に報告をよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>報告事項 令和6年6月戸田市議会定例会 教育関連一般質問及び常任委員会について、報告させていただきます。</p> <p>まず、1ページの補正予算案件については、歳出では主にクラウド</p>

	<p>ファンディングの事業実施のための増額、地域運動部活動推進事業の増額など、歳入では歳出に見合う国・県補助金です。</p> <p>2 ページは、議会初日にありました委員長報告で、この度の文教・建設常任委員会のテーマである「特色ある学校づくり」の調査のため、武蔵野市の市民科と目黒区の 40 分授業午前 5 時間制を視察した内容となっています。なお、委員会では今後市内学校の授業視察も行いたいとの申し出がありましたので、現在 7 月 4 日に戸田南小学校で PBL の授業とちょうど木曜日で水泳指導の日に当たりますので、学校と実施に向けた調整を進めております。</p> <p>最後に 3 ページ以降は、一般質問でございますが、今定例会では 4 名の議員から一般質問が通告されました。</p> <p>まず、浅生議員から、「教師を取り巻く環境整備に係る緊急提言を受けて」として、昨年 8 月に中央教育審議会より「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)」が出され、それを踏まえた取組の徹底等について文部科学省から通知があったが、本市の取組について。次に、野澤議員から、「学校と地域連携の推進」として、現状と大学ポート部の学生との連携について。次に、竹内議員から、「障害のある子供たちの支援」として、就学や進学への支援、将来の就労支援、関係者の連携について。最後に、花井議員から、「教育行政」として、教育総合データベースの進捗状況、教育政策シンクタンクにおける外部アドバイザー、戸田型オルタナティブ・プランについての質問があり、資料のとおりそれぞれ教育部長から答弁しました。</p> <p>なお、再質問等、一般質問の詳細につきましては「戸田市議会本会議録画配信」の二次元コードを掲載しましたので御覧ください。</p> <p>以上です。</p>
<p>事務局</p>	<p>生涯学習課から報告事項、埼玉県立戸田翔陽高等学校と戸田市立郷土博物館の連携企画展写真部作品展の開催について、報告させていただきます。</p>

	<p>資料7ページでございます。</p> <p>昨年度に引き続き、戸田翔陽高等学校写真部と郷土博物館の連携事業として、写真展を開催するものでございます。</p> <p>場所は、戸田市立郷土博物館3階ロビー</p> <p>期間は、7月10日(水)から7月18日(木)までの9日間です。</p> <p>郷土博物館近隣の県立戸田翔陽高等学校には写真部があり、全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園)をはじめ、各写真展において実績を上げています。</p> <p>昨年度は、25日間の開催で、504名の来館がございました。</p> <p>また、来館者アンケートを生徒が御覧になり、更なる制作のモチベーションアップにも繋がったと伺っております。</p> <p>今回の連携事業は、郷土博物館がここ数年取り組んでいる、来館者がアート作品に身近に触れられる機会を提供する「アートミュージアム」機能の展開を図るものでございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>報告事項、令和6年度「子ども大学とだ」について、報告させていただきます。</p> <p>本市では、小学4年生～6年生を対象に、夏休みを利用して、専門的な話を聞いたり、体験学習をすることで、学びの楽しさを知り、学習意欲の一層の向上を図るため、「子ども大学とだ」を毎年開催しております。</p> <p>今年度は、新曽公民館を主会場とし、行政機関や大学と連携した「子ども大学とだ」を開催いたします。</p> <p>それでは、内容について御説明させていただきます。初日、7月27日(土)は、入学式に続いて、「公民館の職員に聞く『体験・公民館ホールの仕事』」を行います。これは、新曽公民館の特色であるホールの活用事例や、舞台裏の仕事の体験を通して舞台演出の技術を学ぶものです。</p> <p>続いて、2日目、8月9日(金)は、「埼玉県立近代美術館の職員に聞く『美術のお話と美術作品体験』」の講座を行います。作品をただ</p>

	<p>見るだけでなく、様々な楽しみ方を発見できるよう、グループごとのワークショップも取り入れ、鑑賞と表現を学ぶ講座を予定しています。</p> <p>続いて、3日目、8月24日(土)は、「中央図書館と郷土博物館を探検してみよう」と題し、同じ新曽地区内の図書館・郷土博物館のバックヤードツアーを実施いたします。普段立ち入れない場所を見学し、本の貸出や展示の仕事の裏側を学びます。子ども大学のカリキュラムの一つとして「ふるさと学」がありますので、市内の施設見学を取り入れています。</p> <p>最終日は、9月7日(土)に、青山学院大学の青山キャンパス訪問を実施します。大学による講座については現在調整中ですが、講座の他にもパイプオルガン演奏の鑑賞やキャンパスツアー、学食でのランチなどを予定しております。</p> <p>申込期間は、7月1日(月)～12日(金)で、7月1日号の市広報・ホームページ等で周知する予定です。また、Home &amp; School を活用し、保護者の皆さまへも御案内いたします。</p>
教 育 長	次に、報告事項 その他 について、事務局から何かございますか。
事 務 局	特になし。
教 育 長	以上で、「報告事項」が終わりました。何か御質問等がありましたら伺います。
教 育 長	まず、報告事項 令和6年6月戸田市議会定例会 教育関連一般質問及び常任委員会について、いかがでしょうか。
各 委 員	特になし。
教 育 長	それでは次の報告事項 埼玉県立戸田翔陽高等学校と戸田市立郷土博物館の連携企画展写真部作品展の開催について、いかがでし

	<p>ようか。</p> <p>こちらの写真展は相当レベルが高いのですよね。</p>
事務局	はい。全国大会でも出品されています。
教育長	ぜひお時間あったら委員の皆様方も御覧になっていただきたいです。プロ級の素晴らしい作品がたくさんあります。
委員	はい。
教育長	続きまして報告事項 令和6年度「子ども大学とだ」について、いかがでしょうか。
委員	今年から青山学院大学内に新しい図書館が出来ました。新しいコンセプトの喋っても良い図書館なので、キャンパスツアーでは大いに遊んで、学んでいただければと思います。
教育長	他にはよろしいでしょうか。それでは次に、議案第18号 戸田市立図書館戸田公園駅前配本所の臨時休所について、事務局より説明願います。
事務局	<p>議案第18号、戸田市立図書館戸田公園駅前配本所の臨時休所について御説明いたします。</p> <p>8月3日開催の第71回戸田橋花火大会開催に伴い、利用者の安全確保等に伴い、配本所が入っている、戸田公園駅前行政センターが、休所になります。</p> <p>よって、配本所についても、午前9時から午後5時30分まで臨時休所します。なお、中央図書館、分館、3分室は通常開館します。</p> <p>戸田市立図書館条例第6条において、図書館の休館日については、教育委員会が必要と認めたときは、臨時に変更できることから、お諮りするものでございます。</p> <p>なお、臨時休所については、広報、ホームページやSNSなどを活用</p>

	し広く周知してまいります。
教 育 長	<p>以上で、「議案第 18 号」が終わりました。</p> <p>では議案第 18 号は提案内容とおり議決することで御異議ございませんでしょうか。</p>
各 委 員	異議なし
教 育 長	異議なしと認め、議案第 18 号は提案内容のとおり議決いたします。
教 育 長	<p>それでは次に、次第の 6 その他の「次回の教育委員会の日程(案)」について、事務局より説明願います。</p>
事 務 局	<p>次回、教育委員会定例会の日程ですが、7 月 18 日(木)午前 9 時 30 分からの開催について、お伺いいたします。</p>
教 育 長	<p>次回の教育委員会定例会の日程は、事務局(案)のとおりでよろしいでしょうか。</p>
各 委 員	了承
教 育 長	<p>それでは、次回の教育委員会定例会の日程は、事務局(案)のとおり決定いたします。</p>
教 育 長	<p>委員の皆様から次回以降の教育委員提案のテーマについて何かございますか。</p>
委 員	<p>2 点あります。1 点目は、以前、学校施設以外での子供のサポート、居場所についてというテーマでお話ししました。最近、戸田公園駅から自宅まで歩いて行くと、放課後の子供たちを預かり、英語教育をやっているスクールがあることに気づきました。もしそういったものがどのように行われて、市民の中で浸透しているのかおわかりになれば教えていただきたいです。</p>

	<p>2点目は、戸田南小学校水泳指導についてです。どのように外部委託が行われているか関心があるので、何らかの形で視察できる機会があるとありがたいです。御検討をお願いします。</p>
教育長	<p>1点目の英語の教室について、こども健やか部の関連もあるので、参事からお願いします。</p>
参事	<p>担当はこども健やか部ですが、一例を申し上げますと本町に小規模認可保育園「アメリカンキッズ英語保育園」があります。こちらは小規模認可保育園で平成28年度に国がスタートした子ども・子育て支援新制度で、以前は「家庭保育室」のカテゴリーであった0歳1歳2歳、定員19名の地域型保育施設です。こちらは英語の保育にプラスして外国人の先生とのふれあいで英語を習得することでグローバル感覚を養うことがメインの趣旨です。仙波委員から子供関連で別テーマも提示されていますので、こちらの件も踏まえてご報告を申し上げます。</p>
教育長	<p>ありがとうございました。</p> <p>2点目の戸田南小学校水泳指導については、可能であれば委員の皆さんにそれぞれ都合のよい日時で見学してもらうような形も考えながら、その際に管理職や委託先の担当者からお話しを伺う機会もつくりたいと思います。</p>
委員	<p>個人情報に関係もあり大変難しいと思うのですが、教育総合データベースの一部データをダッシュボードで活用していると伺ったので、子供のSOSはどういう状況でキャッチするのか等を伺いたいです。</p>
教育長	<p>実際にデモ画面で、教育委員の皆さんに体験してもらうような機会を作ってもらえればと思いますので、教育政策室の方でよろしくお願ひしたいと思います。</p>

委 員	私も教育総合データベースについて、取組は始まったばかりかもしれませんが、保護者の方がどのような意見や感想をお持ちなのか、お聞かせいただきたいです。
教 育 長	わかりました。こちらもタイミングを見て教育政策室から御報告させていただきます。
委 員	<p>前にも話しましたが、戸田市の子供の体力の現状について伺いたいです。息子も学校で体力測定をやっている時期でして、最近は異常気象で暑過ぎたということもあると思いますが、すごい配慮をして運動をさせるイメージがあります。</p> <p>もちろん倒れてしまうとか健康に被害があるのは本当に良くない事ですが、配慮をするが故に逆に運動をする機会が減ってきてしまっているイメージもありますので、戸田市の子供の体力の現状を教えてくださいいただければと思います。</p>
教 育 長	そろそろ体力測定の分析結果が出るのでしょうか。
事 務 局	全国平均などの結果は年末にスポーツ庁から発表されます。戸田市だけの結果でしたら昨年度のものがございます。
教 育 長	可能であれば今年度の結果が出た時の方がいいかもしれません。全体の結果が出た際に発表させていただきます。ありがとうございました。
教 育 長	それでは「議案第 17 号」を議題といたします。秘密会とすることに決定しておりますので、説明員で議案に関係する職員以外は退席願います。
	【議案第 17 号を議決して閉会】

	以上のとおり会議の経過及び結果を記し、相違ないことを証するため署名する。
	令和6年7月18日
	教 育 長
	教育長職務代理者
	委 員
	委 員
	委 員
	書 記